

エコアクション21



環境経営レポート
対象期間2023年1月～2023年12月
発行日 2024年3月1日

株式会社INPEXロジスティクス

目次

- 1.組織の概要
- 2.環境管理組織図と実施体制
- 3.環境経営方針
- 4.環境経営目標と環境経営計画
- 5.環境負荷の実績
- 6.環境経営目標の実績と評価
- 7.環境経営計画の取組み結果とその評価 /次年度の環境経営目標及び環境経営計画
- 8.緊急時対応訓練
- 9.社会貢献活動
- 10.環境関連法規制の違反・勝訴の有無
11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1.組織の概要

1-1事業所および代表者氏名

株式会社INPEXロジスティクス

代表取締役社長 久保田 周

1-2所在地

■本社：新潟県上越市大潟区渋柿浜935番地

1-3関連事業所および所在地

■オイルターミナル直江津：新潟県上越市大字黒井字添2891番地

■大潟サービス・ステーション：新潟県上越市大潟区下小船津浜1165-16番地

■INPEXメガソーラー上越No.2発電所：新潟県上越市大潟区渋柿浜535番地

1-4環境管理責任者および担当者連絡先

■管理責任者：林 雅之

■担当者：堀 英喜

1-5事業内容

■石油製品の販売、原油・石油製品の入出荷および貯蔵、倉庫業、運送業

太陽光発電、サービス・ステーション、パイプラインパトロール

他社太陽光発電設備の維持管理

1-6事業規模

■資本金：1億円

■従業員数95名

■敷地面積：本社 4.0万m²

オイルターミナル直江津 6.8万m²

大潟サービス・ステーション 0.5万m²

INPEXメガソーラー上越No.2発電所 6.0万m²

1-7対象範囲

■全組織・全活動



オイルターミナル直江津のオイルタンク



オイルターミナル直江津のビル



大潟サービスステーション

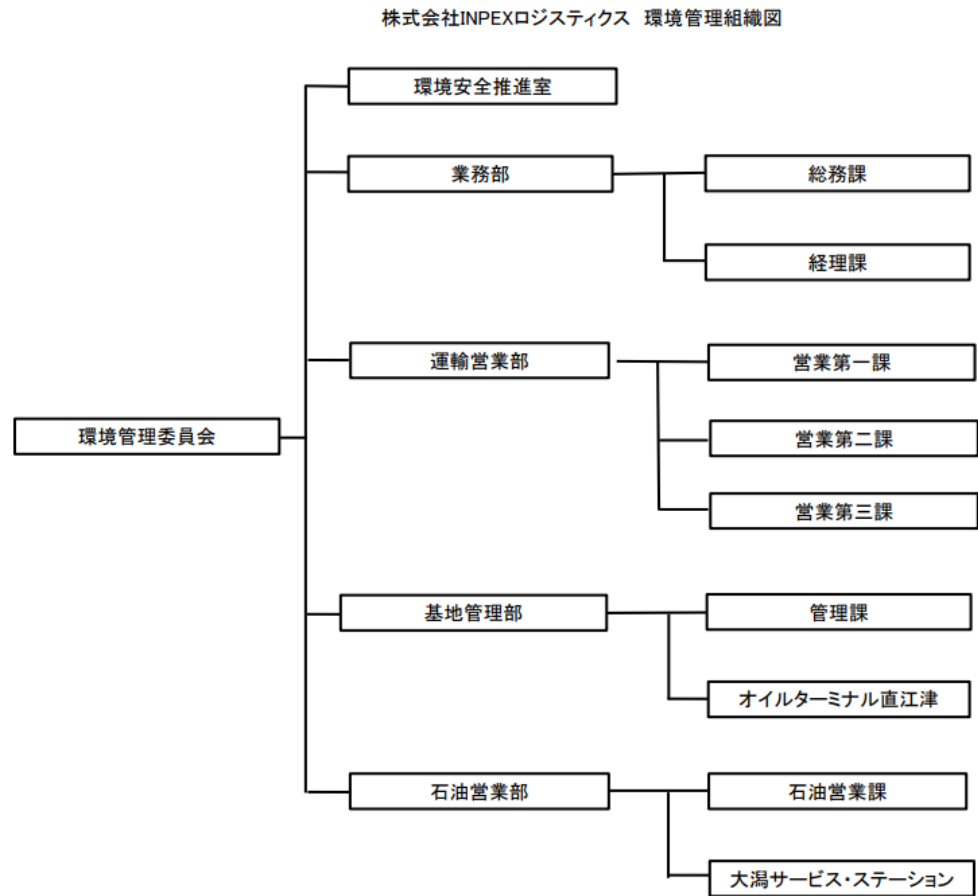


タンクローリー



INPEXメガソーラー

2.環境管理組織図と実施体制



環境マネジメントシステム対応表

責任者		社長	（環境管理責任者 （環境安全推進室長）	運輸営業部長	業務部長	基地管理部長	石油営業部長	環境管理委員	環境安全推進室	HSEユニット	環境安全監督員	管理課長	ターミナル長
要求事項													
1	環境経営方針	◎											
2	環境影響評価		◎					○	○				
3	法規制対応		◎						○				
4	環境目標		◎					○					
5	課業務達成シートの作成			○	○	○	○	◎				○	○
6	環境の日常管理		◎	○	○	○	○					○	○
7	教育・訓練		◎	○	○	○	○					○	○
8	コミュニケーション		◎	○	○	○	○					○	○
9	緊急時対応		◎	○							○	○	○
10	文書管理・記録		◎						○				
11	是正および予防処置		◎	○	○	○	○			◎		◎	○
12	社長による全体の評価と見直し・指示	◎	○	○	○	○	○					○	○
13	EMSの実施及び管理に必要な資源への投資の承認	◎											
14	経営における課題とチャンスを確認する	◎											

◎ 責任者
○ 実行部門

3.環境経営方針

◆経営理念

- ・私たちはINPEXグループの一員として限りある国産原油・それを基とした石油製品の輸送・貯蔵・販売また再生可能エネルギーである太陽光発電の安定操業により、エネルギー供給を通じて社会に貢献していきます。

◆環境基本方針

- ・当社は経営理念に基づいた環境マネジメントシステムを構築・推進して環境負荷を軽減するとともに環境に配慮した継続的な活動を展開します。
- 1.オイルターミナル直江津の施設老朽化による操業への影響を避け、安全・安定操業を確保するため安全管理システムの確実な運用及び施設、設備の保全の徹底に取り組めます。
 - 2.企業活動に伴う環境負荷を軽減するため二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減に取り組めます。
 - 3.環境に配慮した車両運転に努め、省エネルギー対策とエコドライブを実践します。
 - 4.人材の育成と社員教育を充実します。
 - 5.円滑な事業推進に向けたエリア密着のCSR活動を積極的に推進します。
 - 6.環境関連の法規制を遵守します。

2023年4月1日

株式会社INPEXロジスティクス

代表取締役社長 久保田 周

4.環境経営目標と環境経営計画

項目	単位	基準年度2019年 (実績)	2022年度	2023年度	中期目標		
					2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	1,871,763	1,871,763以下	1,871,763以下	1,871,763以下	1,871,763以下	1,871,763以下
産業廃棄物排出量の削減	t	32.9	32.9以下	32.9以下	32.9以下	32.9以下	32.9以下
一般廃棄物排出量の削減	t	1.525	1.525以下	1.525以下	1.525以下	1.525以下	1.525以下
水使用量の削減	m ³	3,679	3,679以下	3,679以下	3,679以下	3,679以下	3,679以下

2019年調整後排出係数0.528使用（東北電力）

項目	取組み
二酸化炭素排出量の削減	全社：脱炭素対策の取組、室内温度管理、節電の呼びかけ OTN：TPM活動による電力削減 管理課：VOC除去装置の効率的な運転管理 運輸：エコドライブの実践
産業廃棄物排出量の削減	全社：産業廃棄物種類別保管管理の徹底、電子マニフェストの管理
一般廃棄物排出量の削減	全社：ゴミの分別の徹底
水使用量の削減	全社：節水の呼びかけ
化学物質の定期的な適正管理	管理課：PRTR対象物質排出量の集計
製品・サービスの環境配慮	全社：車両燃費向上の取組 大潟SS：顧客へ環境に配慮したサービスの提供

5.環境負荷の実績

項目	単位	基準年度2019年	2022年度	差	2023年度	差
二酸化炭素排出量の削減	kg-Co ₂	1,871,763	1,715,198	-156,565	1,220,542	-651,221
産業廃棄物排出量の削減	t	32.9	47.7	14.8	38.5	5.6
一般廃棄物排出量の削減	t	1.525	1.998	0.473	1.627	0.102
水使用量の削減	m ³	3,679	3,527	-152	3,775	96

※二酸化炭素排出量

2019年調整後排出係数0.528使用（東北電力）

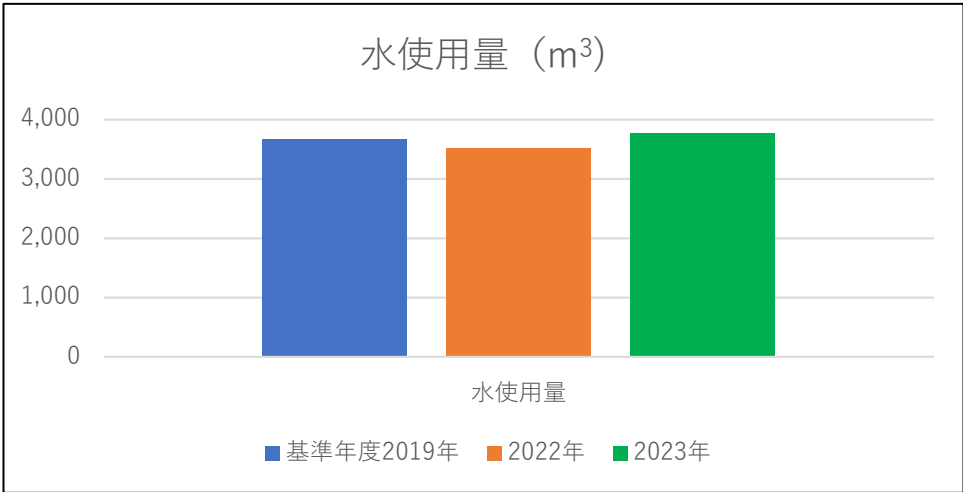
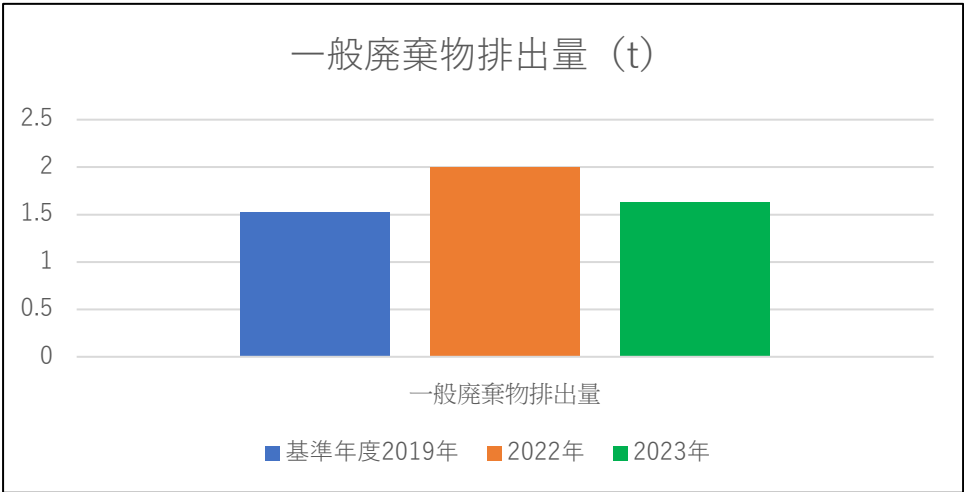
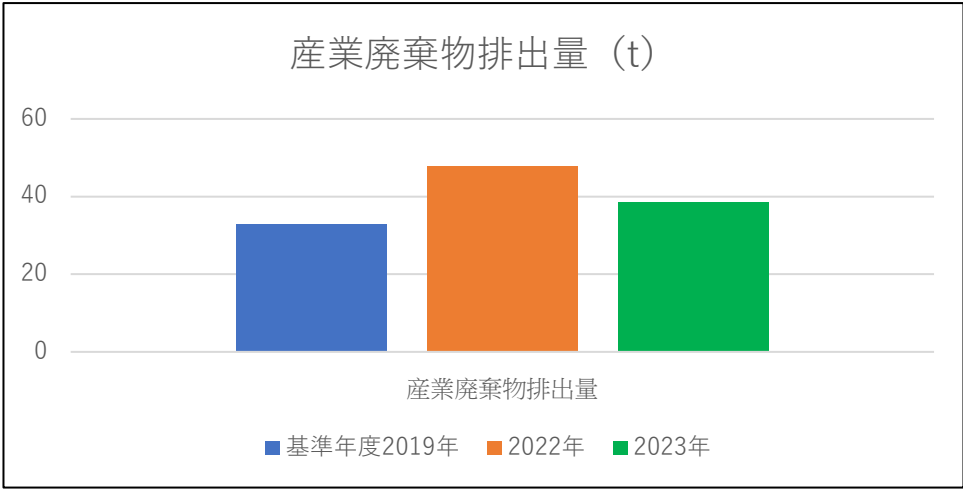
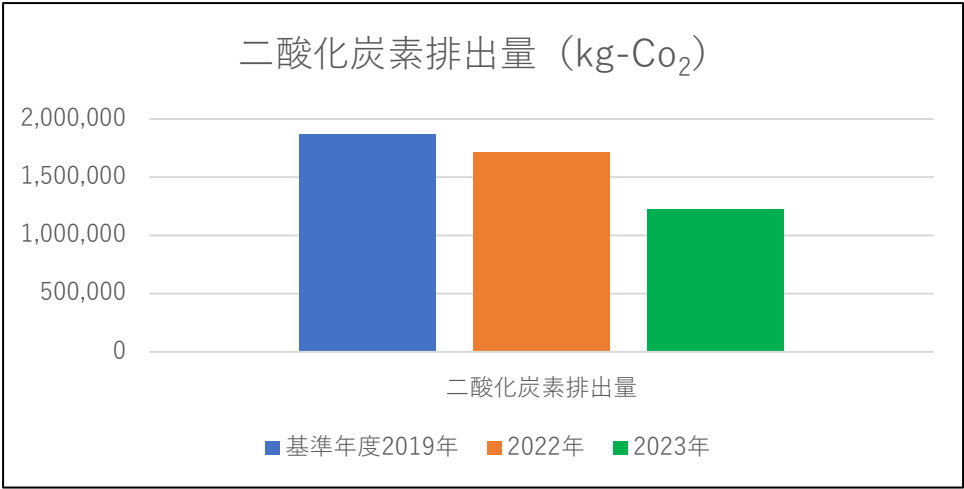
2023年度はOTN使用電力環境配慮型（ゼロエミ）メニューの選択、南魚沼名水の森クレジット150t購入、リニューアブルディーゼル使用を調整

項目	単位	基準年度2019年)	2022年度	差	2023年度	差
電力	kWh	1,184,267	1,093,073	-91,194	1,068,064	-116,203
ガソリン	L	36,349	32,223	-4,126	23,726	-12,623
軽油	L	445,036	407,693	-37,343	401,279	-43,757
灯油	L	1,483	921	-562	490	-993
都市ガス	m ³	4,161	3,637	-524	3,759	-402
LPG	kg	422	434	12	359	-63
リニューアブルディーゼル	L				22,000	

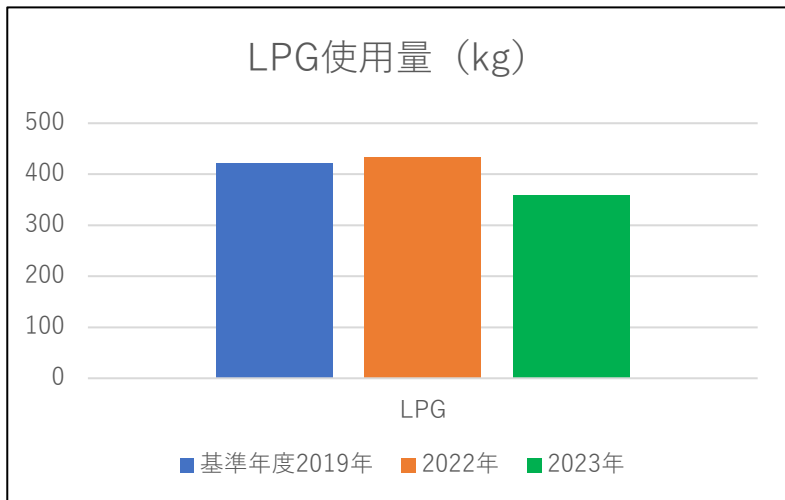
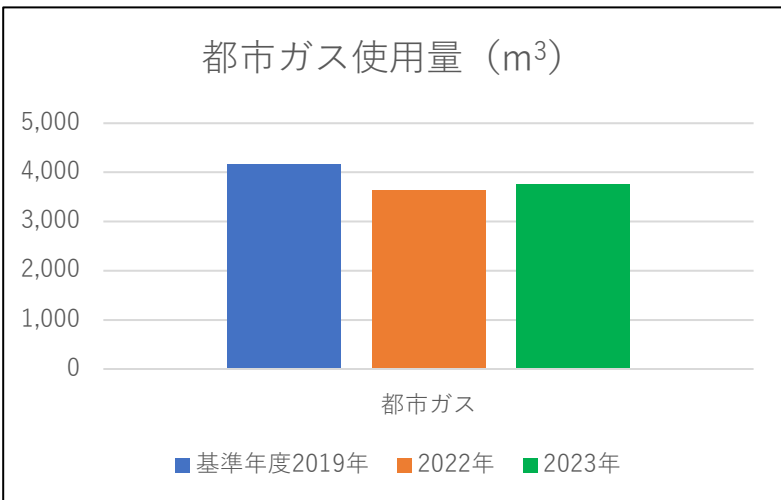
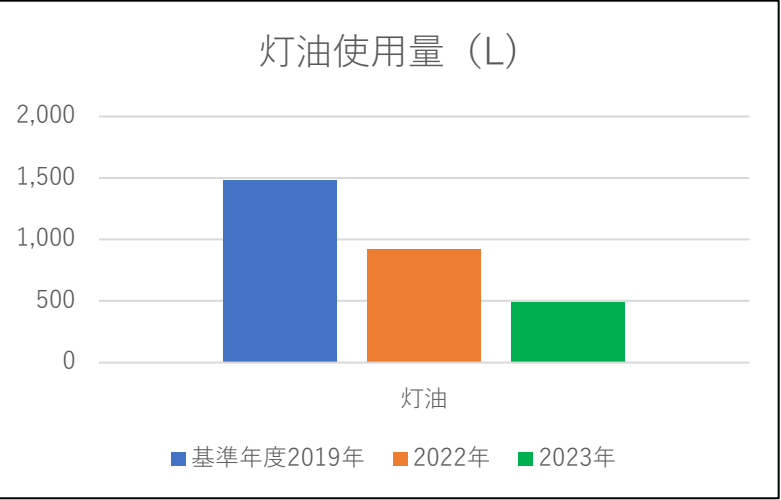
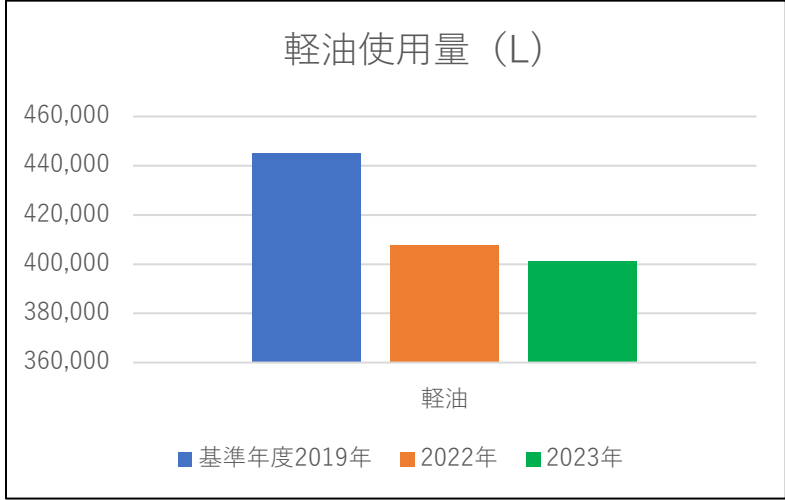
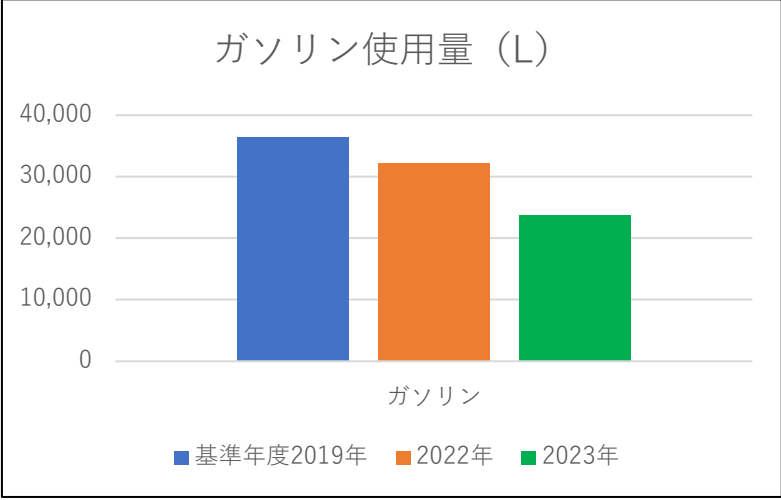
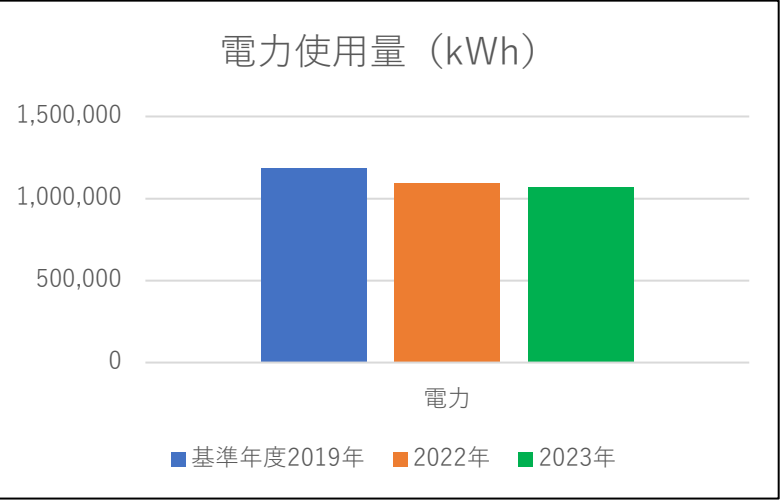
※購入電力先

日鉄エンジニアリング、東北電力、エネット

5.環境負荷の実績



5.環境負荷の実績



6.環境経営目標の実績と評価

項目	単位	基準年度2019年	2023年度	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-Co ₂	1,871,763	1,220,542	-35%	○
産業廃棄物排出量の削減	t	32.9	38.5	17%	×
一般廃棄物排出量の削減	t	1.525	1.627	7%	△
水使用量の削減	m ³	3,679	3,775	3%	△

2019年調整後排出係数0.528使用（東北電力）
2023年度はOTN使用電力環境配慮型（ゼロエミ）メニューの選択、南魚沼名水の森クレジット150t購入、リニューアブルデーズル使用を調整

項目	単位	基準年度2019年	2023年度	達成率	評価
電力	kWh	1,184,267	1,068,064	-10%	○
ガソリン	L	36,349	23,726	-35%	○
軽油	L	445,036	401,279	-10%	○
灯油	L	1,483	490	-67%	○
都市ガス	m ³	4,161	3,759	-10%	○
LPG	kg	422	359	-15%	○

7.環境経営計画の取組み結果とその評価

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

項目	取組み結果	評価
二酸化炭素排出量の削減	脱炭素対策の取組からOTN使用電力の環境配慮型（ゼロエミ）メニュー選択に加え照明のLED化、森林クレジット購入によるカーボンオフセット、大型車両のリニューアブルディーゼル一部使用、パトロール車両のHV化、TPM活動による省エネ取組等により2019年度から大幅に削減することができた。	○
産業廃棄物排出量の削減	産業廃棄物は金属くず、汚泥は排出のタイミングにより17%増加した。特別産業廃棄物の排出はなかった。	×
一般廃棄物排出量の削減	OTNは一部電子承認システムの移行等によるペーパーレス化で26%削減できた。本社地区は人員増の要因により排出が増加した。	△
水使用量の削減	2019年7月に大型車両の自動洗車機導入したが、手動洗車機との併用や月別使用量の変動により増加となった。大潟SSはポリマー施工時スイッチ付きシャワーヘッドに変更する等して節水対策に取り組んだ。	△
化学物質の定期的な適正管理	OTN及び大潟SSにおけるPRTR対象物質の年間排出量を把握し届出を行った。	○
製品・サービスの環境配慮	全社：パトロール車5台HV車へ入替、大型車の添乗教育、エコドライブ講習受講他 大潟SSはエコタイヤ販売、エンジンオイル、エアコンオイル交換等、環境負荷低減に向けたサービスを提供した。	○

再生可能エネルギーの供給

当社のINPEXメガソーラー上越No.2発電所は2015年7月より稼働を開始し、再生可能エネルギーとして太陽光を利用した発電時のCo₂排出量の少ない、地球温暖化対策に有効な電気エネルギーの供給を行っています。2023年度の年間売電量に対するCO₂削減量の実績は下記の通りです。

年間売電量 3,060,296kWh Co₂削減量 1,615,836 kg-Co₂ （火力発電比 排出係数0.528）

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

OTN使用電力は電力排出係数の低いメニューも選択に入れ、森林クレジットの購入、リニューアブルディーゼル一部使用と環境負荷低減に向けた取組みを継続する。

8.緊急時対応訓練

訓練	訓練日	内容
本社地区地震避難訓練、非常用発電機運転停止・電源切替訓練	4月27日 5月17日	地震発生時の避難訓練と商用電源が消失した場合を想定し非常発電機による電源切替訓練を実施
大潟SS非常用発電機運転停止・電源切替訓練	6月28日	商用電源が消失した場合を想定し非常発電機による電源切替訓練を実施
オイルターミナル直江津緊急時対応訓練	9月26日	地震発生時の油漏洩、火災を想定した緊急時対応訓練を実施



9.社会貢献活動

地域社会貢献活動として、本社、オイルターミナル直江津周辺道路のゴミ回収、除草等のクリーン活動を行っています。

本社		
活動回数	参加人数	回収量 (kg)
6	77	8.0

OTN		
活動回数	参加人数	回収量 (kg)
1	5	9.0

10.環境関連法規制の違反・勝訴の有無

適用される法規制	評価	適用される法規制	評価
労働安全衛生法	○	PRTR法	○
消防法	○	フロン排出抑制法	○
高圧ガス法	○	浄化槽法	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	家電リサイクル法	○

環境関連法規等の順守状況について、自主点検を実施した結果遵守されていました。また、関係当局からの違反等の指摘や訴訟はありませんでした。

11.代表者による全体の評価と見直し・指示

●全体の評価

INPEXの掲げる2050年ネットゼロカーボン社会を目指し当社の脱炭素対策から優先順位を決定し、今年度はOTN使用電力を6月から環境配慮型（ゼロエミ）メニュー選択に加え構内照明のLED化を年次計画で更新を行った。また、運輸大型車に使用している軽油に対しCo₂排出量の90%削減効果のあるリニューアブルディーゼルの一部使用や、パイプラインパトロール車のHV化、TPM活動のOTN省エネ運転の取組み、VOC除去装置の効率的な運転、また、エコドライブ運転を実践し環境負荷低減に取組んだ。

●今後の取組み

2024年度も継続した環境管理システムの運用と環境負荷低減に向けた取組みを実践する。

●見直し結果

環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制のレビューを行った結果、変更なしと判断した。

株式会社INPEXロジスティクス
代表取締役社長 久保田 周